


ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	保育科 講師 田 邊 裕 子 (たなべ ひろこ) TANABE Hiroko
所属	保 育 科
学位	博士 (教育学) (東京学芸大学)
資格・免許	小学校教諭二種免許状 (平二四小二種第七四号) 中学校教諭専修免許状 (音楽) (平二三中専修第二六二号) 高等学校教諭専修免許状 (音楽) (平二三高専修第二九四号)
学歴・職歴	<学歴> 2009年 3月 国立音楽大学音楽学部音楽教育学科音楽教育専攻 卒業 2012年 3月 横浜国立大学大学院教育学研究科芸術系教育専攻 修了 2021年 9月 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程芸術系教育講座 修了 <職歴> 2015年 4月 東京音楽大学大学院 研究支援職員 (2020年3月まで) 2016年 4月 東京成徳大学子ども学部 非常勤講師 (2016年9月まで) 2016年 4月 東京学芸大学次世代教育研究推進機構 専門研究員 (2017年3月まで) 2017年 4月 東京学芸大学次世代教育研究推進機構 特命助教 (2019年3月まで) 2019年 4月 東京学芸大学次世代教育研究推進機構 助教 (2021年3月まで) 2020年 4月 白梅学園大学 兼任講師 (2021年3月まで) 2020年 4月 白梅学園短期大学 兼任講師 (現在に至る) 2021年 4月 山梨学院短期大学保育科 専任講師 (現在に至る)
担当科目	音楽 音楽Ⅱ 音楽科教育法 保育内容 (音楽表現) 基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ 社会人基礎力育成講座Ⅰ 社会人基礎力育成講座Ⅱ 音楽科概論 (専攻科)
専門分野	音楽教育学
現在の研究テーマ	身体技法習得としてみる音楽の学びの原理的研究
競争的資金等の研究課題	音楽授業デザインへ適用可能な身体技法習得過程モデルの構築 (科学研究費研究番号 19K23283) (2019年度～2020年度)
所属学会	日本音楽教育学会 日本教科教育学会
メッセージ	子どもたちにとって音楽はとても身近な存在です。特に自分の気持ちを言葉で表現することがまだ難しい乳幼児にとって、音楽は周りの人たちとコミュニケーションを取る重要な手段の一つです。音楽を通して子供たちとたくさんかかわることのできる保育者や教員を目指して、一緒に頑張りましょう！

教育		
2021年4月～2022年3月		
教育方針	子どもと感性を分かち合い、共に感動し、楽しむことのできる音楽性を持つ保育士・教員を養成する	
授業	授業の工夫	<p><音楽科教育法></p> <p>音楽科授業では教師が子供たちの前で範唱や範奏を行う場面が多くあるが、そのときに自信を持って歌ったり演奏したりできるよう、歌唱共通教材の模擬指導やリコーダー演奏試験を一人ずつ行う機会を取り入れた。また、グループごとに行う模擬授業では、学習指導案のアイデアや指導のポイントを全体でシェアして自分の指導の引き出しにするという観点から、低学年・中学年・高学年すべての段階の模擬授業が行われるように、学生の希望と相談しながら振り分けた。</p> <p><保育内容（音楽表現）></p> <p>ピアノ伴奏を用いた音楽表現については1年次に学習するため、本科目ではその他の音楽表現活動を構想・指導できるよう、わらべうたや教育楽器を用いた活動、音さがし活動等の紹介や実践をグループワーク形式にて行った。グループで音楽活動をすることにより、他者と協力しながら試したり、考えたり、音を合わせたり、協働して活動を進めていくことをねらった。</p> <p><音楽科概論></p> <p>音楽科では様々な音楽や楽曲が教材となり得るため、学生が自分なりに教材化の視点から教材研究することができるよう、教員が解説する講義と学生自身が体験する演習を組み合わせ、どちらかに偏ることなくバランスよく進めていくことで、知識と技能の双方を習得させることを心がけた。</p>
	授業改善のための取組	学生に対し常に新しい知見を提供できるよう、学会や研究会に積極的に参加するとともに、教育現場やワークショップにおける実践観察、現職教員との意見交換の場をできる限り持つように心がけ、研究・実践双方の視点を授業や指導内容に組み込むようにしている。
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	卒業演習では、学生一人ひとりが主体的に課題について探究する中で理解を深めることを目指した指導を心がけた。そのために特に、自身の特性や経験、興味・関心に基づいたテーマ設定ができるようにサポートを行った。また、執筆が本格化した時期には少人数指導を取り入れ、個人の進捗に応じた助言や、学生がその時に求めている援助を即座に提供できるよう配慮した。

教育 (つづき)	
2021年4月～2022年3月 (つづき)	
ゼミ (つづき)	<p>卒業レポート・ 修了研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が見るEテレの番組構成についてー幼児の興味関心を掻き立て長年愛される番組ー ・ ボーカロイドと歌謡曲との関連性 ・ 弾き歌いの困難さについて ・ 子どもを持つ、持たないの考え方ー子どもを産むことは当たり前ではないー ・ 実習中に経験した ADHD の特性を持つ幼児、就学児との関わりについて ・ BGM のメリットと特徴についてー子どもが集まる BGM の特徴とはー ・ インターネット社会が子どもや子どもを取り巻く環境に与える影響ー YouTube Kids を基に考えるー ・ ユーフォニアム初心者のためのプログラムー既存の教本『もっと音楽が好きになる上達の基本』と自身の経験に基づいた考察ー ・ 幼児たちに愛されるアニメーションの共通の特徴 ・ 音楽が人に与える影響 ・ 保育現場のマーチングバンドの指導方法に関する考察ーアンケート・インタビューをもとにー ・ 日本での音楽療法の認知度・実用性ー現在の日本の音楽療法からー ・ 子どもへの人形劇の効果 ・ 保育現場における子どもが好む歌の取り入れ方ー1歳児、3歳児、保護者、保育者への調査を通してー ・ 書道パフォーマンスの現状と魅力ー様々な調査を通してのー考察ー ・ オリンピックについてー古代オリンピックと近代オリンピックの違いー
課外活動	なし
2021年3月以前	
主な教育業績	該当なし

研究		
2021年4月～2022年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著書） 2030年の学校教育—新しい資質・能力を育成する授業モデル—（共著） <担当部分> 第2章 1 育成すべき資質・能力の定義 （pp. 56-57, 62-63, 68-69, 86-87） 2 研究方法（pp. 88-91）	2021年 6月	明治図書
（学術論文） 「物語に音楽をつけて表現する活動」における学びの経験（単著）	2022年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第42巻
2021年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 音楽教育研究において身体へアプローチすることの重要性：音楽の二項対立パラダイムの超克を目指して（単著）	2019年 3月	教育デザイン研究 第10号
（学術論文） 音楽科教育における「聴く」ことの再考をめざして：カリキュラム史、多文化音楽教育、ポピュラー音楽文化の視点からの示唆（共著）	2016年 10月	学校教育学研究論集 第34号
（その他：学会発表） 目黒流貫井雛子における身体技法の習得過程：習得の段階性と練習のずれをめぐって（単独）	2020年 10月	日本音楽教育学会 第51回大会
（その他：報告） 2030年以降の社会に必要な教育を考える①～③（単独）	2020年 2月	CREDUON Vol. 173～175 （東京学芸大学こども未来研究所）
社会貢献		
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2021年4月～2022年3月		
大学コンソーシアムやまなし高大接続委員会委員		
2021年3月以前（主なもの）		
第4回東京学芸大学次世代教育研究推進機構（NGE）Web シンポジウムにおける成果報告発表 日本音楽教育学会 参事（2015年4月～2017年3月まで）		
受賞 ※個人、所属団体		
該当なし		